

2016年度第3四半期決算説明会(2017年2月2日開催)

主な質疑応答の内容(要旨)

※ 説明会開催日(2017年2月2日)時点の情報に基づく内容です

**Q. 為替が好転したにも関わらず、営業利益を2,400億円で据え置いた理由を教えてください。**

A. 為替好転の一方で、第3四半期までに当社が抱える様々な問題について対策を講じてきました。第4四半期で伸びが期待される分野もありますが、年度見通しを上方修正するまでの状況にはありません。

**Q. 「2015事業計画推進状況」説明資料P20によれば、主力合併事業のPMI(Post Merger Integration)の加速により、来期は300億円程度の営業利益押し上げ効果を見込んでいるように見えますが、従来からPMIが遅れ気味であると認識しています。本当に目論見どおりの効果をあげることができるのでしょうか。**

A. PMIの推進により300~400億円程度の費用を削減できると考えています。製鉄機械事業を担うPrimetals Technologiesでは、従来から固定費を含む費用の削減を進めているほか、火力発電システム事業を担う三菱日立パワーシステムズにおいても各種効率化を推進してまいります。

**Q. アセットマネジメントの一環として、資産の売却も予定しているようですが、米国での原子力発電所に係る仲裁(以下、「SONGS」という)や、南アフリカ共和国の火力発電所建設に関する日立製作所との費用負担の問題(以下、「南アフリカ案件」という)といった案件を抱えるなか、フリーキャッシュフロー1,000億円の獲得は難しいのではないのでしょうか。**

A. MRJの開発や、南アフリカ案件等の影響でB/Sが膨らんでいますが、これらの要素は既に前提条件として織り込んでおり、SONGS仲裁による大きな影響がなければ、フリーキャッシュフロー1,000億円の獲得は達成可能だと思っています。有利子負債も増加していますが、主に短期間での償還を前提としたコマーシャルペーパーで賄っており、年度末に向けた一時的な在庫増等によって膨らんでいる部分は間もなく解消していく見通しです。

**Q. 受注から売上計上までの期間について、これまではおおよそ2年だったものが、2.5年~3年に伸びているとの説明がありましたが、その理由を教えてください。**

A. 現在原因を調査していますが、受注から売上計上までに3年超を要する案件が増えています。昨今は、経済状況や各種アセスメントの影響等により、受注から工事着工までに要する時間が長くなってきているほか、当社が手掛けるアフターサービスビジネスにおいて、10年~15年単位のLTSA(Long Term Service Agreement)が増えています。今後はそれらを念頭において収支計画を考えていかなければいけないと思っています。

**Q. 主に、エネルギー・環境の売上計上が遅れているという点について、キャッシュフロー上も想定より入金が遅れているものと理解していますが、最終的な採算性は大丈夫なのでしょうか。**

A. 受注時採算は、以前の水準から大きな変化はありませんし、売上計上時期の遅れが採算悪化をもたらすものでもありません。一方で、来年、再来年にはコンベンショナル火力の生産がピークを迎えます。受注を消化するために固定費が増えているのは事実であり、その固定費を上手くコントロールしていくことが課題であると認識しています。

以上